

1. 学歴

- 1985年 3月 一橋大学経済学部卒業
1985年 4月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程入学
1987年 3月 同課程修了
1987年 4月 一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程進学
1990年 3月 同課程単位修得退学
2005年 11月 一橋大学博士(経済学)号取得

2. 職歴・研究歴

- 1990年 4月 一橋大学経済学部助手(1991年3月まで)
1991年 4月 成城大学経済学部専任講師
1994年 4月 成城大学経済学部助教授(1996年3月まで)
1996年 4月 一橋大学経済学部助教授
1998年 4月 一橋大学大学院経済学研究科助教授
1998年 4月 パリ第一大学客員研究員(1999年9月まで, 国際交流基金派遣)
2004年 3月 同上(2005年1月まで, 文部科学省在外研究)
2006年 4月 一橋大学大学院経済学研究科教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

経済史入門, 経済史 A, 地域研究の方法, 基礎ゼミ, 基礎講義, EU 入門, 一橋大学の歴史

(b) 大学院

比較経済史, ワークショップ, リサーチワークショップ

B. ゼミナール

学部前期, 学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

「経済史入門」では, 経済史研究の知的可能性を紹介している。19 世紀以来の経済実証研究の方法態度(分析主題・方法・概念等)を典型的に整理・紹介し, それぞれの射程と限界について考察している。「経済史 A」は, 「近代社会」の構造的性質を解説する場である。ただ, その個性的理解を促すために「前近代社会」を分析し, その分析手法を「近代社会」論との比較の観点から論ずる場としても位置付けている。「文明史」も, やはり「近代社会」を比較社会類型論の立場から理解することを目標とする。そのために, 「近代」を生んだヨーロッパ前近代社会を, その政治構造をも含めて論じている。他方, 「地域研究の方法」は, 近現代における国際経済

関係の展開と地中海地域の地域社会変動を念頭に、地域研究のあり方に関わる諸議論を紹介する。「基礎ゼミ」は、具体的な歴史学・経済史研究の方法について導入的に例示することを目標とした少人数の講義である。20世紀の国際関係史と地域研究の双方に関わる理論的・実証的論文・文献、また最近では、中世ヨーロッパ・地中海世界の構造的な理解に関わる文献を講読し、議論している。

EU入門、一橋大学の歴史は、近年コーディネートを担当する科目である。前者は、EUの歴史と現況を4学部から出講する諸教授と論じ、後者は、近代日本の経済社会発展における本学の役割、また、各時代における高等実業教育の編成について、国際比較の観点から研究・教育している。

学部ゼミナールでは、ヨーロッパ・地中海世界の経済社会の形成・構造に関する英語文献を講読し、大学院ゼミナールでは、参加者の関心に沿った修士論文、博士論文の作成に向けた助言を与えている。いずれのゼミでも、最新の研究書・論文とともに、過去の古典的文献にも注意を向けるよう指導している。現実の政治・社会動向に規定された研究史の批判的検証を行い、自身の問題関心を彫琢してもらうためである。

ゼミナール関係では、以上と並行して、地中海地域を研究フィールドとする学生数名を対象に、ギリシア語、ラテン語史料の講読を行っている。また、ワークショップおよびリサーチワークショップ(大学院)では、「経済史の方法」「地中海地域経済論」を、EUIJ関連科目、一橋大学の歴史においては、近代ヨーロッパでの経済社会発展と実業教育の関連を踏まえて、近代日本における本学の研究教育体制の展開について、関連諸教授と共同で開講している。

4. 主な研究テーマ

(1) ビザンツ帝国の経済社会分析

比較国制史、比較社会経済史の観点から、ビザンツ帝国の経済社会構造分析を行っている。同社会の特質を国家・社会構造比較の観点から分析し、「西欧」世界の特殊性との比較において把握しようとしている。

(2) 西洋中世世界の比較社会構造研究

「近代社会」を生んだ西洋世界の母胎としての中世世界の把握を試行している。この作業は、現行の「世界標準」としての近代的価値体系、諸制度、国家権力のあり方(国家と市場の関係を含む)を、歴史個性的に把握する上で有意な試みと考えている。

(3) 地中海文明論

「近代西欧」世界を生んだ母胎としてのキリスト教世界は、地中海を舞台として展開された。この認識に立つて、イスラム世界をも含む地中海文明論を構想している。

(4) 比較経済史方法論

「近代経済社会」を分析するための学として発達した経済史は、「前近代」また非西欧世界の経済社会分析にどの程度適用可能か。この関心のもと、「市場」「産業」「国民国家」等の近代的諸規準に加えて、「互酬」「再分配」「権力機構論」等にも注目しながら経済社会分析の方法について検討している。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

『帝国と慈善 ビザンツ』創文社、2005年7月、476頁。(2006年度日経・経済図書文化賞対象著作)

(b) 論文(査読つき論文には*)

* 「初期ビザンツ帝国における教会の税制特権について—テオドシウス法典の分析を中心に—」『史学雑誌』第98

- 編第 10 号, 1989 年 10 月, 1-39 頁。
- * 「初期ビザンツ帝国の社会構造と慈善事業—E・パトラジアンの問題提起とその射程」『一橋論叢』第 102 巻第 6 号, 1989 年 12 月, 174-194 頁。
- * 「ビザンツ帝国における教会寄進と国家権力—5・6 世紀の法制化をめぐって」『史学雑誌』第 101 編第 2 号, 1992 年 2 月, 1-42 頁。
- "Peut-on parler encore de féodalisme byzantin? : essai d'un autre modèle," *Mediterranean world*, Vol.13, 1992, pp.1-8.
- "Donations to the Church and the State in the Byzantine Empire—Legislation in the 5th and 6th centuries—," *Mediterranean World XIII* (Mediterranean Studies Group, Hitotsubashi University), 1992. 3, pp. 9-20.
- 「ビザンツの出現—帝国・教会・官職貴族」『創文』342 号, 1993 年 4 月, 21-24 頁。
- 「ビザンツ中後期の文書『テュピコン』をめぐって」『一橋論叢』第 110 巻第 4 号, 1993 年 10 月, 672-681 頁。
- 「11 世紀ビザンツ貴族の教会施設経営と家産政策—ミカエル・アッタレイアテスとその施設」『成城大学経済研究』123 号, 1993 年 12 月, 85-129 頁。
- "Alexius Studites' Two Documents on Reforms of Charistike," *Mediterranean World XIV* (Mediterranean Studies Group, Hitotsubashi University), 1995. 3, pp. 31-39.
- 「アレクシオス・ストウディテスによるクリスティキア改革のための 2 通の「覚え書き」」『成城大学経済研究』129 号, 1995 年 6 月, 71-98 頁。
- 「イスタンブールのギリシア人—ギリシア・トルコ関係の中の少数集団」『一橋論叢』第 116 巻第 4 号, 1996 年 10 月, 689-707 頁。
- 「クレモナ司教リウドブランドの「苛立ち」—『コンスタンティノーブル使節記』の背景」『社会科学古典資料センター年報』18 号, 1998 年 3 月, 14-22 頁。
- 「ピレンヌ・テーゼとビザンツ帝国—コンスタンティノーブル・ローマ・フランク関係の変容を中心に」岩波講座『世界歴史 7—ヨーロッパの誕生—』1998 年 5 月, 213-240 頁。
- 「バシレイオス 2 世新法再考—10 世紀ビザンツ皇帝の財政問題と教会政策」『一橋大学研究年報 経済学研究』40, 1998 年 10 月, 183-229 頁。
- 「12 世紀コンスタンティノーブルの帝国病院」歴史学研究会編『講座地中海世界史第 3—ネットワークのなかの地中海』青木書店, 1999 年 5 月, 232-255 頁。
- 「ビザンツ帝国財政と寄進—マリアの遺産とイヴィロン修道院」『一橋論叢』第 122 巻第 4 号, 1999 年 10 月, 506-526 頁。
- * 「ビザンツ社会の寄進文書—事例に見る諸特徴」『歴史学研究』737 号, 2000 年 6 月, 2-12 頁。
- "Sacred Dedication in the Byzantine Imperial Finance—Maria's bequest and Iveron monastery—," *Mediterranean World XVI* (Mediterranean Studies Group, Hitotsubashi University), 2001. 4, pp. 89-99.
- 「ブローデル後の地中海史研究」社会経済史学会『社会経済史学の課題と展望』有斐閣, 2002 年 8 月, 75-88 頁。
- * 「リウトブランド 968 年ミッションの目的と齟齬—10 世紀キリスト教世界における「ローマ皇帝」問題に向けて」『西洋史研究』新輯第 31 号, 2002 年 11 月, 74-104 頁。
- 「10～11 世紀ビザンツ社会のクリスティキア—教会施設管理の俗人委託慣行と国家権力」渡辺節夫編『ヨーロッパ中世の権力編成と展開』東京大学出版会, 2003 年 2 月, 40-75 頁。
- 「ギリシア正教徒にとってのコンスタンティノーブル」『アジア遊学: イスタンブール—宗教と民族が交錯する国際都市』勉誠出版, 2003 年 2-10 頁。

- 「ビザンツ帝国租税制度覚書」文部省科学研究費補助金特定領域研究(A)「古典学の再構築」『传承と受容(世界)班研究論文集』, 2003年3月, 35-42頁。
- 「歴史のなかの私たち—現代の古層・中世の革新・多層の現在」『一橋論叢』第129巻第4号, 2003年4月, 382-400頁。
- 「ビザンツ国家と慈善施設—皇帝・教会・市民をめぐる救貧制度」長谷部史彦編『中世環地中海圏都市の救貧』第1章, 慶應義塾大学出版会, 2004年8月, 1-44頁。
- 「ビザンツ帝国の徴税実務と修道院—イヴィロン修道院文書に見られる税の査定と特権構造」法文化学会編『法文化としての租税』国際書院, 2005年1月, 9-73頁。
- 「「帝国」の原像へ:ビザンツ国家の射程」*Mediterranean World* (地中海論集) 18巻, 2006年, 183-196頁。
- "Towards the origin of "Empire": a perspective on the study of the Byzantine State," *Mediterranean World XVIII* (Mediterranean Studies Group, Hitotsubashi University), 2006. 5, pp. 183-196.
- 「組織と<個>の布置—文明論の構図」『創文』493号, 創文社, 2006年12月, 11-15頁。
- * 「寄進と再分配の摂理—キリスト教ローマ帝国の生成」『歴史学研究』833号, 2007年10月, 2-12頁。
- "Monastic Property and the Imperial Taxation System—As Seen in Iviron Documents," *Mediterranean World XIX* (Mediterranean Studies Group, Hitotsubashi University), 2008. 5, pp. 263-296.
- * "Levissi Village (Kaya) and the Population Exchange between Greece and Turkey," in Kazuo ASANO (ed.), *The Island of St. Nicolas*. Osaka U.P., 2010. 2, pp. 275-284.
- 「ビザンツ国家の行政機構と教会組織—地域統合の制度とイデオロギー」『歴史学研究』872号, 2010年10月増刊号, 157-165頁。
- * 「イヴィロン修道院の所領形成と帝国統治」渡辺節夫編『ヨーロッパ中世社会における統合と調整』創文社, 2011年2月, 282-311頁。
- * 「ビザンツ人の終末論—古代末期における世界年代記と同時代認識—」甚野尚志・益田朋幸編『中世の時間意識』知泉書館, 2012年4月, 5-25頁。
- "Pioneer of Byzantine Studies in Japan: Late Prof. Kin-ichi Watanabe's Works," *Mediterranean World XI*, 2012.6, pp.295-300.

(c) 翻訳

- * ミッシェル・カブラン「聖者伝資料に見られるビザンツ社会の空間と聖性」『オリエント』第46巻第2号, 2004年3月, 225-244頁。
- リウトブランド『コンスタンティノーブル使節記』(Liudprandi Relatio de Legatione Constantinopolitana)『ローマ皇帝称号問題と中世キリスト教世界の政治秩序に関する研究』(文部省科学研究費補助金基盤研究(C)成果報告書)所収, 2004年5月, 93頁。
- ピエール・マラヴァル『皇帝ユスティニアヌス』白水社, 2005年1月, 185頁。
- ベルナルド・フリューザン『ビザンツ文明—キリスト教ローマ帝国の伝統と変容』白水社, 2009年7月, 167頁。

(d) その他

- 「ビザンツ世界での古代テキスト伝承を想う」『地中海学会月報』318号(2009年3月), 3頁。
- (展望論文)2008年の歴史学界—回顧と展望—「中世 ロシア・ビザンツ」『史学雑誌』第118編第5号(2009年5月)327-329頁。
- (シンポジウムコメント)「第58回日本西洋史学会大会小シンポジウム報告:ローマ帝国の「滅亡」とは何か」南川高志編「(2)井上報告の含意—古代史総決算としてのローマ史の射程」『西洋史学』第234号(2009年9月)

30日)69-71頁。

(シンポジウムコメント)「フォーラム「シンポジウム:ビザンツ文明を考える」甚野報告, 和田報告, 太記報告に寄せて」『西洋史学』第238号(2010年9月30日)48-49頁。

「時空の交差点(1)共生する空間」『創文』492号(創文社, 2006年11月)～「時空の交差点(46)満天の星々に」『創文』537号(2010年12月)。

「続・時空の交差点(1)コペルニクスの転回」『季刊創文』1号(創文社, 2011年5月)～「続・時空の交差点(8)豊かな共生」『季刊創文』8号(2013年2月)。

(新刊紹介)「Meier, Mischa (Hrsg.), *Justinian. Neue Wege der Forschung*. Darmstadt, Wissenschaftliche Buchgesellschaft, 2010. 289S. 49.90 Euro.」『西洋中世学』第3号(2011年12月31日)199-200頁。

「ビザンツ史から見える世界史の地平—帝国・教会・個人—」<第31回 史学会大会特別講演会記録>『史友』(青山学院大学文学部)第44号(2012年3月20日)1-27頁。

「個と個を結ぶ絆—ラヴェンナ・モザイクが語ること」『学際』No.24(2012年4月25日)41-49頁。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

" Recherches sur le couronnement de Charlemagne, " Mediterranean Studies Group Workshop in collaborations with CERES. at Tunis (Tunisia) , Connectivity and Micro-Region in the Mediterranean. mercredi, 25 mars 2009.

*「ビザンツ国家の行政機構と教会組織—地域統合の制度とイデオロギー」歴史学研究会合同部会報告, 専修大学生田キャンパス, 2010年5月23日

" Levissi Village (Kaya) and the Population Exchange between Greece and Turkey, " Mediterranean Studies Group Workshop in collaborations with Trieste University (Italy) 2-4 settembre 2010.

「ビザンツ帝国と「第2のローマ」論—帝権の座所とその移転」日本西洋史学会第61回大会 小シンポジウム I 中世ヨーロッパ世界にとっての「ローマ」第3報告, 日本大学文理学部, 2011年5月15日

*「ビザンツ史から見える世界史の地平—帝国・教会・個人—」青山学院大学文学部史学会第51回大会, 特別講演, 同大学渋谷キャンパス, 2011年12月10日

「戦後歴史学とビザンツ史」日本ビザンツ学会第10回大会, 一橋大学, 2012年3月30日

*「中世キリスト教世界におけるローマ理念の再生—9～11世紀の国際関係から」早稲田大学プロジェクト研究所, ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所第3回シンポジウム, 2012年9月29日

*「現代世界とビザンツ史—世界史への視座・日本からの視点」愛知学院大学文学部, 2012年度特別講演, 同大学日進キャンパス, 2012年11月9日

(b) 国内研究プロジェクト

「中世キリスト教世界の秩序編成原理と近代社会のモダニティ」21世紀 COE プログラム「ヨーロッパの革新的研究拠点—衝突と和解」, 一橋大学, 2004 - 2008年度, 事業分担者(領域代表者:山内進氏)

「中世ヨーロッパにおける権力構造とアイデンティティ—複合」文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B), 青山学院大学, 2005 - 2008年度, 研究分担者(研究代表者:渡辺節夫氏)

「西洋と日本における国制史研究の方法的再定位—資料論・学問史の視角から」文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B), 北海道大学, 2007 - 2009年度, 研究分担者(研究代表者:田口正樹氏)

「地中海島嶼社会の社会経済ネットワークと海域研究の方法と視角」文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A), 一橋大学, 2008 - 2011年度, 研究代表者

「ヨーロッパ中世における社会秩序と貴族の位相に関する比較史的研究」文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B), 青山学院大学, 2009 - 2012年度, 研究分担者(研究代表者: 渡辺節夫氏)

「法史・国制史における「伝統」と「構築」—転換期を中心とした多層的アプローチ」文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B), 北海道大学, 2010 - 2012年度, 研究分担者(研究代表者: 田口正樹氏)

「ヨーロッパ史における政治と宗教のダイナミズムと国家的秩序の形成」文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B), 早稲田大学, 2010 - 2013年度, 研究分担者(研究代表者: 甚野尚志氏)

「ロブリエール家文書を取り巻く世界—14～18世紀フランス所領経営と領主文書の謎を解く」文部科学省科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究, 一橋大学, 2012 - 2014年度, 研究代表者

(d) 研究集会オーガナイズ

国際交流セミナー(2010年1月14日, ラシダ・シャプトー氏, タハール・マンスーリ氏: いずれもチュニス大学教授)

国際交流セミナー(2010年10月17日, ヴァイオス・ヴァイオプーロス氏: イオニア大学准教授)

国際交流セミナー(2011年7月17日, ガブリエッラ・アイラルディ氏: ジェノヴァ大学名誉教授)

Mediterranean Studies Group Workshop in collaborations with CERES at Tunis (Tunisia). mercredi, 25 mars 2009.

Mediterranean Studies Group Workshop in collaborations with Trieste University (Italy) 2-4 settembre 2010.

C. 受賞

第2回地中海学会ヘレンド賞(地中海学会, 1997年)

第49回日経・経済図書文化賞(『帝国と慈善 ビザンツ』に対して, 日本経済新聞社, 2006年)

6. 学内行政

(b) 学内委員会

全学教育ワーキンググループ(2005年2月 - 2010年3月)

危機管理室員(2007年4月 -)

理事補佐・評価担当(2007年9月 - 2008年11月)

次期中期目標・中期計画ワーキンググループ(2008年7月 - 2009年7月)

教育研究評議員(2009年4月 - 2012年3月)

EUIJ 東京コンソーシアム執行委員長(2010年12月 -)

EU 共同大学院設置準備室員(2011年4月 -)

社会貢献委員会(2012年4月 -)

(c) 課外活動顧問

一橋大学柔道部長(2005年4月 -)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

成城大学経済学部・非常勤講師(1996年度 -)

慶應義塾大学言語文化研究所・兼任所員(2004 - 2011年度)

国際日本文化研究センター・共同研究員(2006 - 2009年度)

成城大学社会イノベーション学部・非常勤講師(2009年度)

大阪大学文学部・非常勤講師(2011年度)

早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所招聘研究員(2012年度 -)

(b) 所属学会および学術活動

社会経済史学会(理事:2011年1月 - 編集副委員長)

西洋中世学会(常任委員:2009年4月 - 2012年6月, 監査委員:2012年6月 -)

史学会

地中海学会

日本オリエント学会

歴史学研究会

(c) 公開講座・開放講座

一橋大学開放講座「中世帝国から見える歴史の風景:一橋の文明史論に学んで」2008年11月20日, 如水会館

一橋フォーラム第71期「地中海都市の肖像-交差する民族・文化・歴史-」2009年4-7月, 如水会館, コーディネート

一橋フォーラム第74期「日本の思想・一橋人の文明観-アジアと世界へのまなざし-」2010年4-7月, 如水会館, 加藤博教授と共同コーディネート

(d) その他

NHK「高校講座 世界史」監修・解説, 第11回「ビザンツ帝国」第12回「西ヨーロッパ世界の成立」第13回「十字軍の時代」, 日本放送協会 Eテレ(教育), 2012年6-7月放映分。